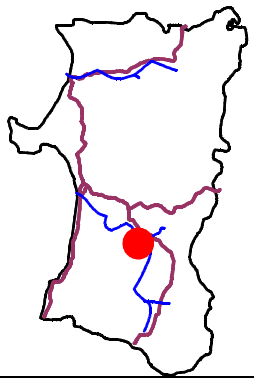
魅力ある都市づくり

事業名	一般国道１３号　大曲（おおまが）バイパス　（直轄） （秋田県大仙（だいせん）市）
事業着手：平成１１年度	完成・供用の目標年度：平成１９年度全線完成供用予定

事業の必要性・事業の概要

秋田県



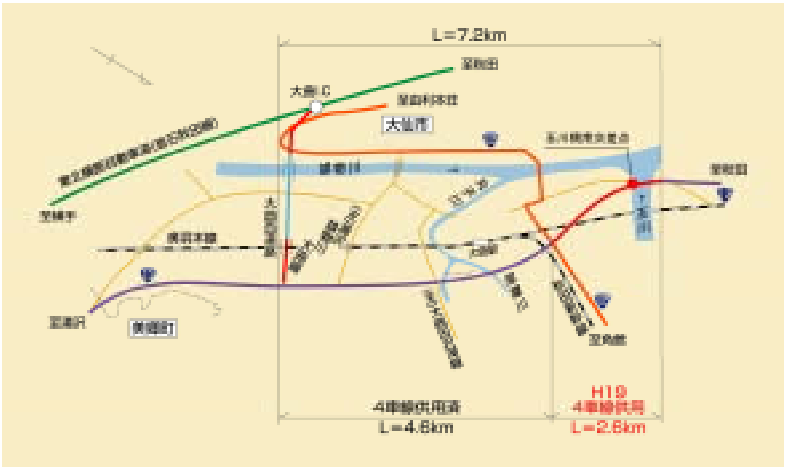
「事業の必要性」

一般国道１３号は、福島市を起点として山形市、新庄市、湯沢市、横手市、大仙市等の主要都市を経て秋田市に至る総延長３１４．６ｋｍの主要幹線道路として重要な役割を果たしています。

大仙市を通過する大曲バイパスは、中心市街地部の交通環境を改善する目的で計画され、平成５年に２車線暫定供用しました。しかしながら、郊外型ショッピングセンター等の出店、地域間交流の増大等により交通量が増し、速度の低下、渋滞の発生等幹線道路としての機能が低下しています。

「事業の概要」

大曲バイパスはこれらの問題を解消し、また、秋田県で整備中の「地域高規格道路　大曲西道路」と連携して「秋田自動車道　大曲IC」へのアクセス性の向上及び既設橋梁の耐震補強を図り、より一層の地域活性化の支援と地震時等による被災時の円滑な救急・救援活動や緊急物資の輸送、復旧活動の支援等を図る事などを目的とした延長７．２ｋｍの４車線化事業です。



▲位　置　図



▲整備が進む大曲バイパス



▲玉川橋南交差点渋滞状況

平成１９年度の予定

○玉川（たまがわ）橋の耐震補強を継続実施するとともに、舗装及び付属施設工事を実施し、全線完成供用を図る予定です。

事　業　効　果

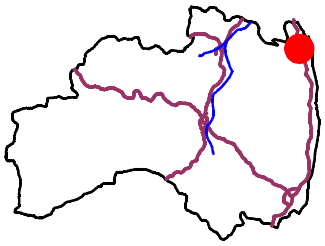
○地域高規格道路「大曲西道路」と一体になった整備を行うことにより、大曲ＩＣおよび大仙市街地とのアクセス性が向上します。

魅力ある都市づくり

事業名	一般国道6号　相馬バイパス　(直轄) (福島県相馬市～相馬郡新地町)
事業着手：昭和62年度	完成・供用の目標年度：平成19年度全線暫定供用予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

一般国道6号の相馬市街地部は、福島県相双地方生活圏で最も交通混雑が発生しているほか、沿道騒音が要請限度を超過しており、早急な対策が求められています。さらに常磐自動車道(仮)相馬ICから重要港湾相馬港及び相馬中核工業団地へのアクセス性向上が求められております。

「事業の概要」

相馬バイパスは、主要渋滞ポイントの塚ノ町交差点周辺等の渋滞緩和や交差点事故の減少、沿道騒音等の改善を図るとともに、物流及び観光の拠点の連携強化を目的とした延長9．9kmのバイパス事業です。昨年度末までに、主要地方道原町海老相馬線から一般国道113号までの5．2kmが供用済みで、残り4．7kmについて事業を行っています。



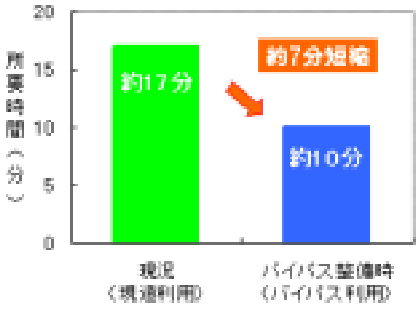
▲位　置　図



▲塚ノ町交差点の渋滞状況

相馬バイパス全線供用の効果

相馬市街地の通過時間が短縮されます



相馬市日下石～新地町小川間の所要時間

※現況はH18プローブデータ



▲駒ヶ嶺高架橋から現6号方向を望む

平成19年度の予定

○現国道6号～主要地方道原町海老相馬線及び国道113号から現国道6号について橋梁工事及び付属施設、舗装工事を実施し、全線暫定供用を図る予定です。

事　業　効　果

○相馬市街地の渋滞緩和や、より安全で信頼性の高い交通網の確保が図られます。
○相馬市街地の通過時間が短縮されます。(17分→10分　約7分短縮)

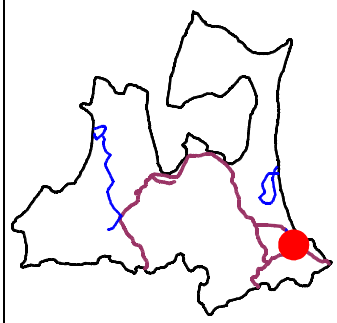
魅力ある都市づくり

事業名	一般国道45号　八戸(はちのへ)バイパス（直轄） （青森県八戸(はちのへし)市）

事業着手：昭和40年度	完成・供用の目標年度：平成19年度全線完成供用予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



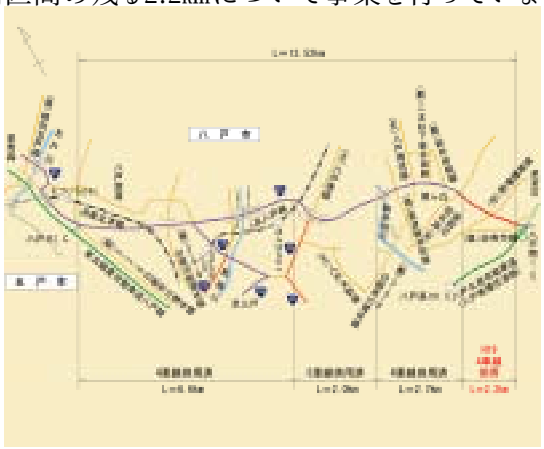
「事業の必要性」

本路線は、八戸市内の交通混雑の緩和や沿道環境の改善、周辺開発の支援を目的に、昭和40年に事業着手し、昭和59年度までに全線暫定2車線で供用しました。その後、八戸市街化の拡大に伴う交通量の増大や沿道開発の進展により主要幹線道路としての機能が低下したため、昭和49年度から多車線化事業に着手し、これまで、延長約11.3kmの多車線化を完了しています。

また、地域活性化促進道路事業として、21世紀活力圏創造事業や国際交流インフラ推進事業においても整備強化路線として位置づけられ、地域の産業経済の活性化や地域振興に寄与する重要路線です。

「事業の概要」

八戸バイパスは、主要渋滞ポイント「大開(おおびらき)交差点」の渋滞緩和や沿道環境の改善、三次救急医療施設「八戸市民病院」へのアクセス向上による救急医療体制の強化等を目的とした延長13.5kmのバイパスで、起点側区間の残る2.2kmについて事業を行っています。



▲ 位　置　図



▲ 大開(おおびらき)交差点の渋滞状況
- 最大渋滞長：500m
- 最大通過時間：　3分
- 最大渋滞時刻：14時30分(休日)



▲ 旭ヶ丘交差点より起点側を望む



平成19年度の予定

○八戸市大字妙(みょう)～市川町(いちかわまち)間L=2.2kmにおいて、舗装工事等を実施し、平成19年度の全線完成供用を図る予定です。

事　業　効　果

○多車線化により交通容量が増加し、渋滞ポイント「大開交差点」の渋滞解消を含めた、当該区間の交通混雑が緩和し、八戸以南、主に階上町(はしかみちょう)との時間短縮が図られ、円滑なモビリティが確保。

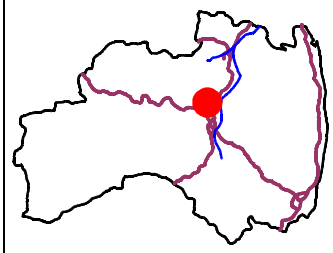
○国道45号に接続する（主）八戸環状線沿いにある三次救急医療施設である「八戸市民病院」へのアクセスが向上し、救急医療体制が強化。

魅力ある都市づくり

事業名	一般国道4号　本宮拡幅（直轄） （福島県安達郡本宮町～大玉村）

事業着手：昭和53年度	完成・供用の目標年度：平成19年度全線完成供用予定

事業の必要性・事業の概要



「事業の必要性」

福島市と郡山市間を結ぶ国道4号で唯一の2車線区間で、交通のボトルネックとなっており、混雑度が1．72と高く、渋滞損失時間が高くなっています。

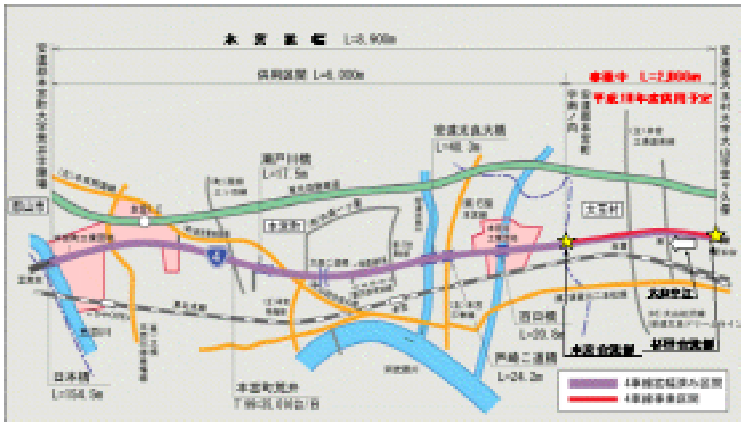
4車線から2車線に絞られる本宮合流部や杉田合流部では、渋滞が発生しており、早急な対策が求められています。

また、この区間の交通事故は増加傾向を示しており、早急な対策が求められています。

「事業の概要」

本宮拡幅は、一般国道4号福島県安達郡本宮町内、大玉村内の渋滞解消及び交通安全の確保、物流効率化、地域間交流の促進を目的とした延長8．9kmの4車線拡幅事業です。

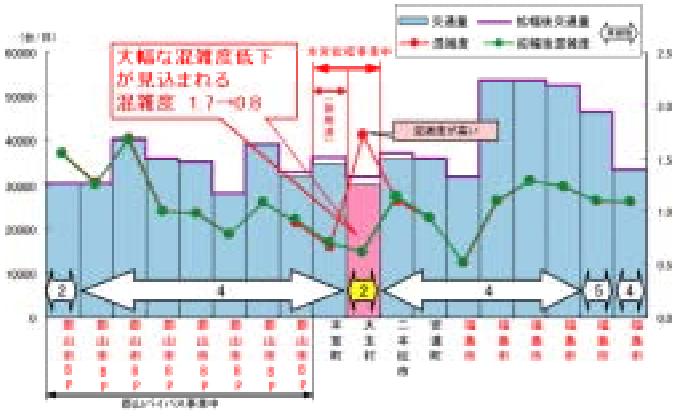
平成16年度までに本宮町内の6．0kmについて完成供用を図っており、残る大玉村内の2．9kmについて事業を行っています。



▲　位　置　図



▲本宮合流部より終点方向を望む



▲国道4号郡山市福島市間の交通量・混雑状況



▲大玉村大山中江付近の渋滞状況

平成19年度の予定

○平成19年度は、大玉村内の道路改良及び舗装工事を実施し、全線完成供用を図る予定です。

事　業　効　果

○渋滞損失時間の減少（本宮拡幅事業区間全体：H19供用時点）
　281万人・時間／年　→　154万人・時間／年　　127万人時間／年（45％削減）
○交通事故の削減（事業中区間）
　27件／年　→　17件／年　　10件／年（37％削減）

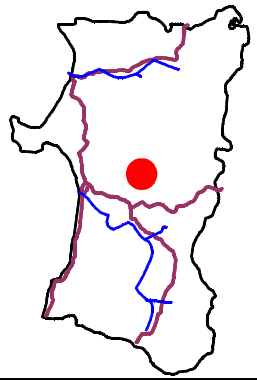
魅力ある都市づくり

事業名	盛岡秋田道路　一般国道46号　角館バイパス（直轄） （秋田県仙北市）

事業着手：平成9年度	完成・供用の目標年度：平成19年度部分暫定供用予定

事業の必要性・事業の概要

秋田県

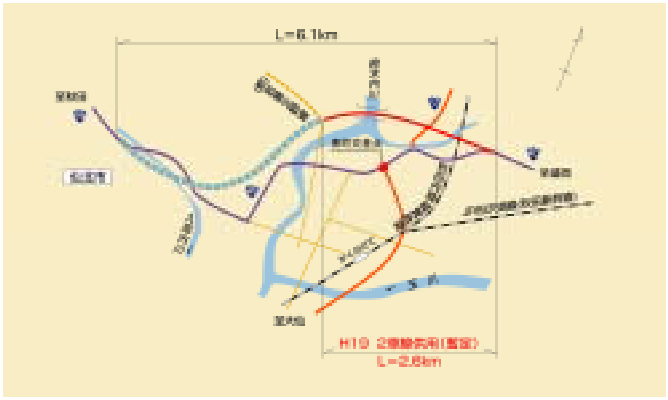


「事業の必要性」

一般国道46号は、盛岡市を起点として秋田市に至る主要幹線道路です。旧田沢湖町、旧角館町を通過する現道は、直角曲がりの存在や幅員狭小などにより、特に冬期の安全安心な交通環境が求められています。また、さくら祭り期間といった観光交通の集中による交通混雑、武家屋敷の存在や田沢湖など観光地へのルートでもあり、交通量の増加により著しい渋滞が発生していることから、沿道環境と交通環境を改善するため、一般国道46号のバイパス整備が強く期待され、早急な整備が必要となっています。

「事業の概要」

角館バイパス事業は、秋田県と岩手県の地域間交流の促進、交通隘路及び交通混雑の改善、観光産業への支援などを目的として整備を進められています。平成19年度は、仙北市田沢湖羽根ヶ台から角館町小勝田の県道日三市角館線までのL=2．6kmの部分暫定供用を目指し整備を行っています。



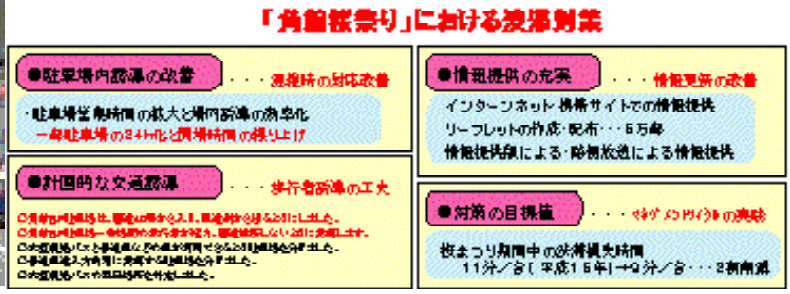
▲　位　置　図



▲角館バイパスの整備状況



▲表町交差点の渋滞状況



▲ソフト的対策による渋滞緩和施策の実施

平成19年度の予定

○仙北市田沢湖羽根ヶ台～角館町小勝田の県道日三市角館線までのL=2．6kmについて、舗装及び付属施設工事を実施し、部分暫定供用を図る予定です。

事　業　効　果

○秋田県と岩手県の地域間交流の促進
○交通隘路（直角曲がり）の解消
○観光交通の円滑化と観光産業支援
○通過交通排除による現道の交通混雑緩和

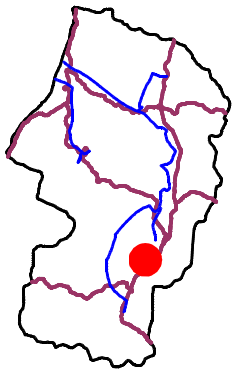
魅力ある都市づくり

事業名	一般国道１３号　上山バイパス（直轄） （山形県南陽市（なんようし）～山形県山形市（やまがたし））

事業着手：昭和５４年度	完成・供用の目標年度：平成１９年度部分暫定供用予定

事業の必要性・事業の概要

山形県

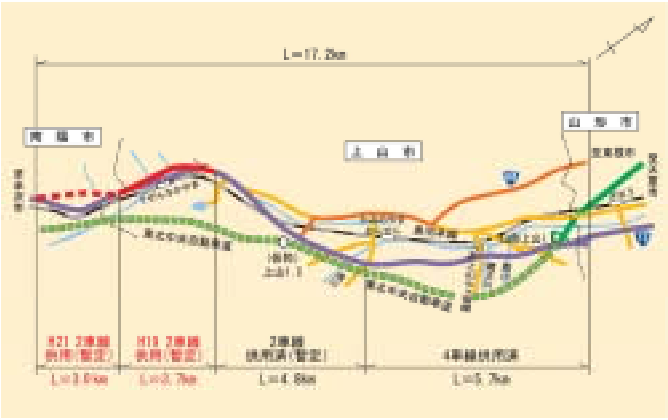


「事業の必要性」

一般国道１３号における当区間は、幅員が狭く、大型車両等の通過交通が多いため、沿道に暮らす住民の安全性の低下や生活環境の悪化が大きな問題となっています。また、当区間には主要渋滞ポイント「中川交差点」「川口交差点」があり、朝夕のラッシュ時をはじめ渋滞が発生しており、通勤や産業活動に支障をきたしていることから、国道としての機能低下が著しく、早急な整備が必要となっています。

「事業の概要」

上山バイパスは、国道１３号の渋滞解消、沿道環境の改善、災害・事故時の迂回路確保を目的とした延長17.2kmのバイパスです。上山市川口～山形市半郷間10.5kmについては供用済み、残る6.7km区間について事業を行っています。





▲中川交差点の渋滞状況



▲バイパス整備による所要時間短縮



▲整備が進む上山バイパス
（上山市元中山付近より終点方向を望む）

平成１９年度の予定

○上山市中山～上山市川口間L=3.7kmにおいて、土工・舗装工事を実施し、部分暫定供用を図る予定です。

事　業　効　果

○国道１３号の渋滞緩和（主要渋滞ポイント２箇所の渋滞解消）
○騒音や振動等の低減による沿道環境の改善
○災害・事故等緊急時の迂回路確保
○冬期走行環境改善及び歩行者の安全性確保

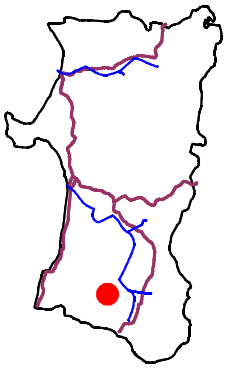
魅力ある都市づくり域づくり

事業名	まちづくり交付金「西毛音内地区」 （秋田県羽後町）

事業着手：平成１６年度	完成・供用の目標年度：平成１９年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

秋田県



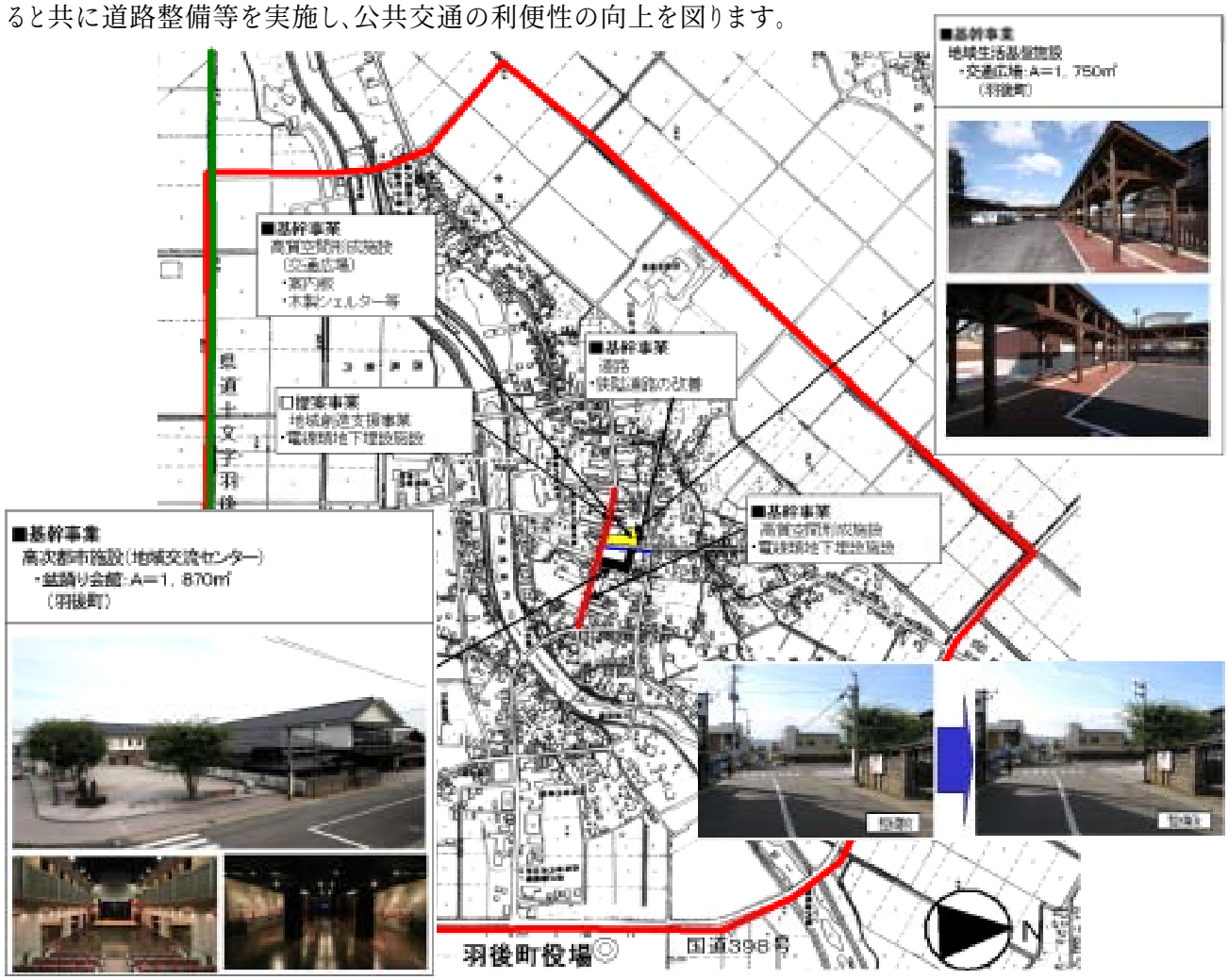
「事業の必要性」

西毛音内地区は、古くより形成された商業地域であるとともに行政、医療、教育等の施設が集積した町の中心的な役割を担う地区です。又、700年の歴史を持つ、「西毛音内盆踊り」の伝承の地でもあります。

盆踊りの観光客は年々増加していますが、期間以外は、町を訪れても西馬音内盆踊りについて知り、体感することの出来る場がない現状にある為、「西馬音内盆踊り」の伝承文化の継承に向けた基盤整備を図る必要があります。又、盆踊りのメイン会場である通りは歩道のない車道のみの道路となっており、歩行者の安全の確保と来町者への交通利便性の向上を目指す必要があります。

「事業の概要」

歴史・文化・資源を活用しながらにぎわいのある交流拠点の形成を図る為、通年観光によりにぎわいのある交流拠点を目指し、質の高い歴史空間まちづくりを進め、盆踊り会館を核とした歴史・観光施設整備を実施。又、多くの観光客にやさしいまちづくりとして、案内板・照明施設設置等により観光客のスムーズな誘導を図ると共に道路整備等を実施し、公共交通の利便性の向上を図ります。



平成１９年度の予定

○平成19年度は、電線類地下埋設や案内板の設置を行い事業の完成を目指します。

事　業　効　果

○盆踊り練習や創作活動を通じて地域住民の交流の拡大に寄与します。
○交流拠点と観光拠点とのネットワークにより観光客入込数の増加が期待されます。
○盆踊り会館・交通広場の整備による通年観光の確立が期待されます。

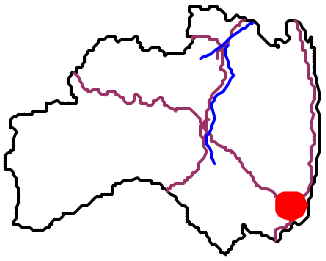
魅力ある都市づくり域づくり

事業名	まちづくり交付金「いわき駅前地区」 （福島県いわき市）

事業着手：平成16年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



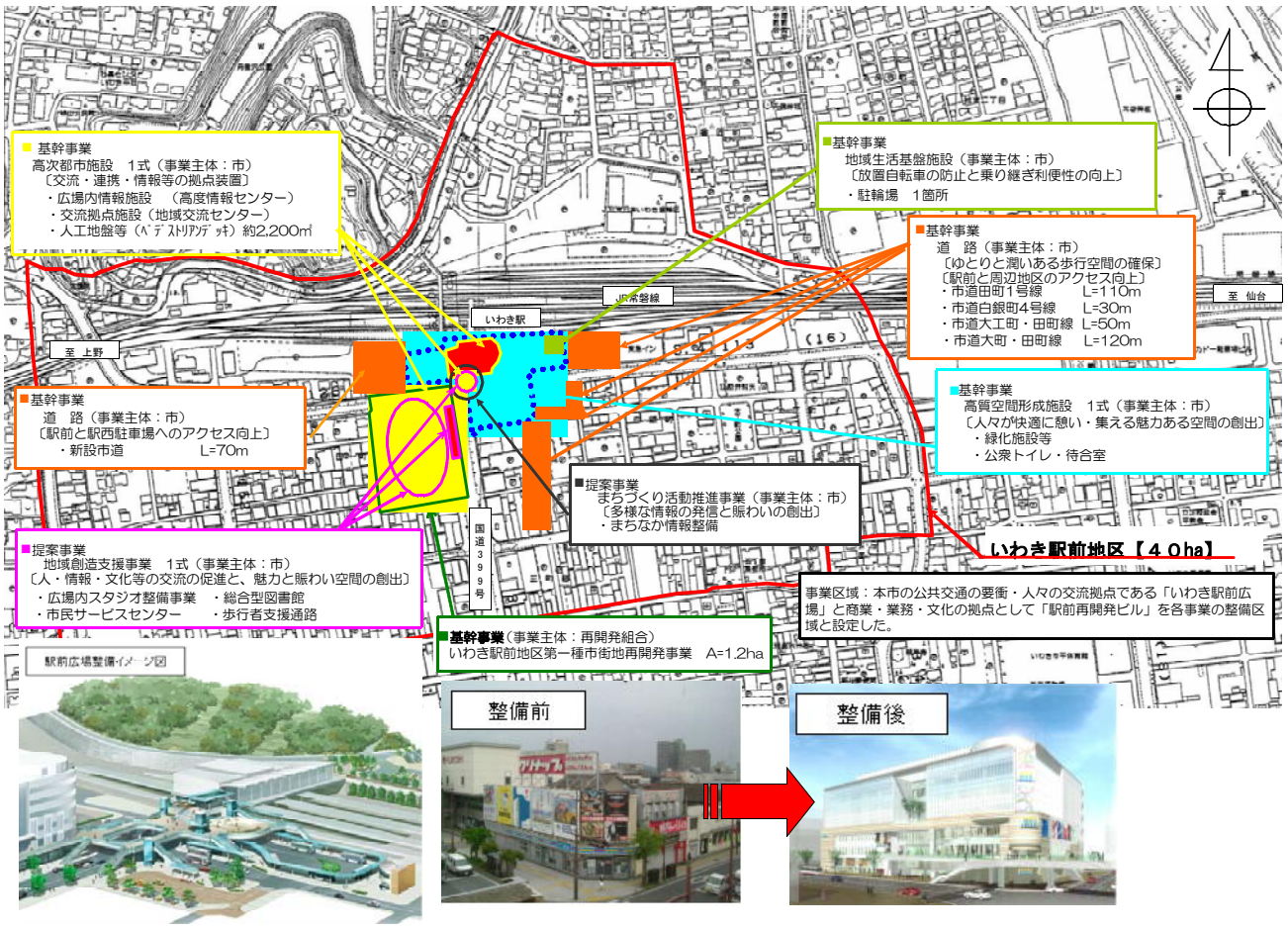
「事業の必要性」

公共交通の要衝であり、商業・業務施設及び公共施設が相当程度集積しているいわき駅周辺は市街地の空洞化が著しく、交通結節機能やバリアフリー化が不十分で良好な都市環境空間に乏しい状況にある為、いわき圏域の発展をリードする都市・生活文化の交流・創造・発信拠点づくりを基本目標とし、人々が「学び」「創り」「遊び」「交流」する拠点の提供や潤いと安らぎを与える「都市空間の形成」などによる中心市街地の再生を図る必要があります。

「事業の概要」

「いわき駅前地区第一種市街地開発事業」による商業施設との複合機能として、総合型図書館、交流拠点施設、市民サービスセンター等の拠点整備を実施します。

又、高度情報センター、まちなか情報などを整備し、駅前広場の緑化、来街者をもてなす人工滝などの周景施設整備を行うとともに駅前広場の拡張、南北を結ぶ自由通路整備やバリアフリー化への対応による交通環境の整備・改善を実施します。



平成19年度の予定

○平成19年度は駅前再開発事業の完成を図ります。

事　業　効　果

○市民生活の交流・連携、情報等の機能強化を図り、拠点としての賑わいの創出に寄与します。
○商業機能の再生のほか、地元産業の育成、教育文化・公共施設の集積等により、中心市街地の魅力の再生に寄与します。
○交通結節機能の強化、高齢化社会等に対応したバリアフリー推進により都市環境の改善に寄与します。

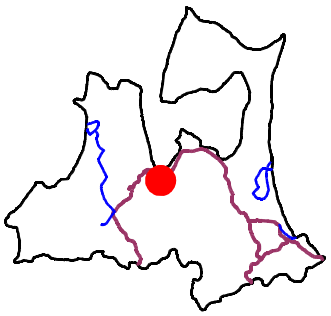
魅力ある都市づくり域づくり

事業名	まちづくり交付金「新幹線新青森駅・青森駅周辺地区」 （青森県青森市）

事業着手：平成18年度	完成・供用の目標年度：平成22年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

平成24年度開業予定の新幹線新青森駅は中心市街地から西4kmの位置に整備されることから、その開業効果を中心市街地の活性化に繋げる為、青森駅のある中心市街地を賑わい機能を担う地区、新幹線駅が整備される石江地区を広域交流拠点としての玄関口と位置づけ、各拠点の機能分担と連絡強化を図りながら、利便性や効率性などに優れたコンパクトシティの形成を目指す必要があります。

「事業の概要」

地域交流センター・観光交流センター整備と港町青森を記憶づける青函連絡船を活かした港の歴史伝承施設整備を行い、中心市街地活性化を図ります。新幹線新青森駅及び青森駅利用者の利便性向上の為、駅前広場・青森駅駐輪場整備を行うとともに、緑豊かな「青森らしい」景観形成に向けた駅前公園整備や駅前大通線の高質空間形成を図ります。



平成19年度の予定

○平成19年度は、新青森駅周辺地区の公共用地取得を実施し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

○青森駅周辺の拠点性・集客力の強化と様々な施策との連携を図る事によって、中心市街地の歩行者数の増加を図り、地区全体の賑わい創出に寄与します。
○新幹線開業効果を活かし、広域的な情報発信等により年間を通じた観光客の増加が期待されます。
○新青森駅及び青森駅の案内機能・交通環境の向上と良好な景観形成により、駅利用者の利便性・快適性の向上に寄与します。

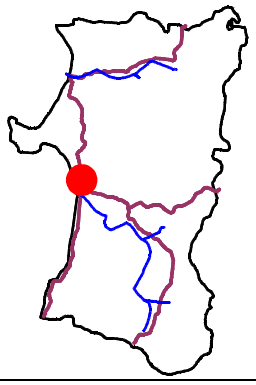
魅力ある都市づくり

事業名	都市計画道路　秋田中央道路（補助：事業主体　秋田県） （秋田県秋田市）

事業着手：平成９年度	完成・供用の目標年度：平成１９年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

秋田県



「事業の必要性」

秋田駅東西間を結ぶ道路は、駅南北の２箇所しかなく、鉄道や河川を横断するこの２箇所の交通渋滞は慢性的で、通勤通学時や積雪時での渋滞が深刻な状態です。

また、秋田自動車道および秋田空港とのアクセス道路としても利用されることから非常に重要な路線として位置付けられています。

「事業の概要」

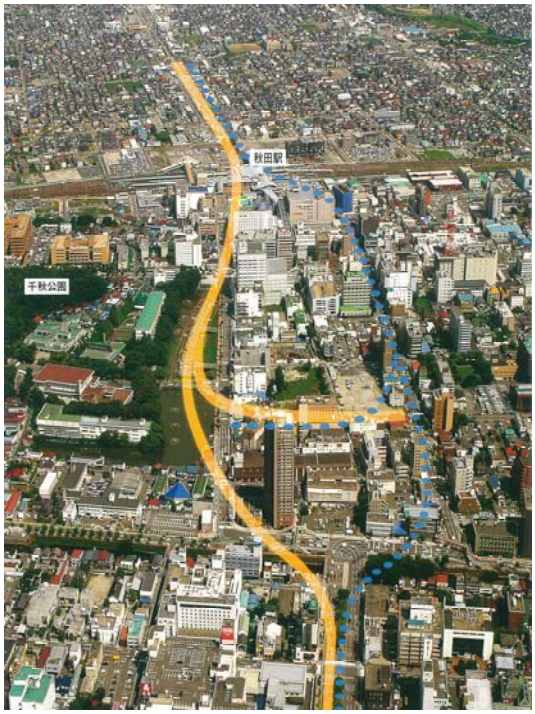
本事業は、駅東西にかけてトンネル構造で横断し中間地点のお堀部から出口が１箇所設けられた全長2,550mの自動車専用道路を整備する街路事業です。

トンネル掘削は周辺環境への影響を極力少なくすることからシールド工法を採用し進められています。

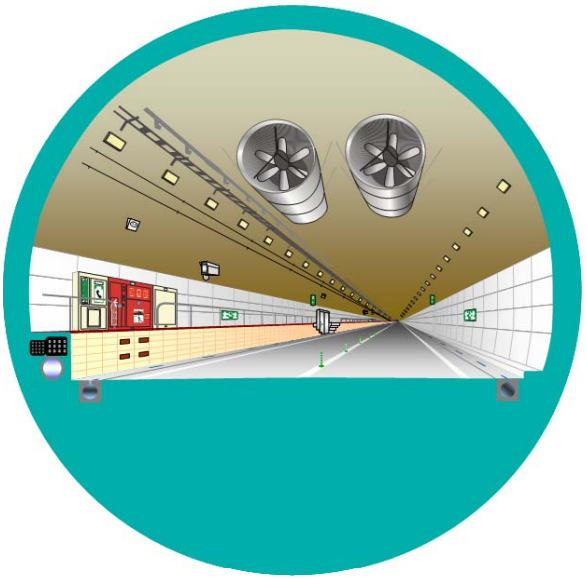
秋田中央道路　L=2，550m



＜位置図＞



＜駅上空写真＞



＜完成イメージ＞

平成１９年度の予定

○平成19年度の若杉国体開催に向け、換気所工事等を推進し事業の完成を目指します。

事　業　効　果

○秋田駅東西間の慢性的な交通渋滞が緩和されます。
○秋田市中心部と秋田自動車道および秋田空港とのアクセス機能が向上します。
○中心市街地の活性化を支援します。